

國此よしを承て、さては君は小がうゆゑにおぼしめしゑづませ給ひたんなり、さらんに取てはとて、御かいゑやくの女房たちをも参らせられず、参内ゑたまふ人々もそねえられければ、入道のけんゐにはゐかつて、参りかよふ臣下もなし、男女うちひそめて、禁中いさゝしうぞ見えし、中略主上はかやうの事共に御なうつかせ給ひて、つひにかくれさせ給ひけるとかや、

〔源平盛衰記 十二〕安徳天皇御位事

二月十九日、治承四年春宮位ニ即セ給、安徳天皇ト申、僅ニ三歳ニゾ成セ給、イツシカナリ、先帝高倉

モ異ナル御事モマシマサチ共、我御孫子ヲ付奉ランタメニオロシ奉ル、是モ太政入道清盛ノ萬

事思様ナル故也ト、人々私語傾申ケリ、平大納言時忠卿聞之被申ケルハ、ナジカハイツシカ也ト

申ベキ、異國ニハ周ノ成王三歳、晉穆帝二歳、皆襁褓ノ中ニ裏レテ、衣帶ヲ正クセザリシカ共、或ハ

攝政負テ位ニツキ、或ハ母后懷テ朝ニ望トイヘリ、後漢孝殤皇帝ハ、生テ百餘日ニテ踐祚アリキ、

我朝ニハ近衛院三歳、六條院二歳、コレ皆天子ノ位ヲ踐給フ、非無前蹤、ナジカハ人ノ傾申ベキト

噺リ宣ケレバ、時ノ才人達、穴オソロシ、物云ハジ、去バ其ハ吉例ニヤハ有トゾツバヤキケル、

〔保建大記 三〕臣略愿曰、中略淨海縁亂離建奇功、以舉朝無識、柄用太過、專務鷗張、輕蔑王家、終幽閉法

皇、脅迫上皇、貶斥丞相大臣、以擁立外孫、襁褓之孺子、罪惡貫盈、弑逆且旦夕、

〔源平盛衰記 十六〕遷都附將軍塚附司天臺事、

治承四年五月廿九日ニハ、都遷アルベキ由有其沙汰、中略法皇後河ヲバ、福原ニ三間ナル板屋ヲ

造テ、四面ニ波多板シ廻シテ、南ニ向テ一口一ツ開タルニゾ居エ進ラセケル、筑紫武士石戸ノ諸卿

種直ガ子ニ、佐原ノ大夫種益奉守護ケリ、一日ニ二度、如形供御ヲ進セケリ、斯リケレバ此御所ヲ

バ、重部ハ樓御所トゾ申ケル、守護ノ武士嚴シカリケレバ、輒人モ不参、鳥羽殿ヲ出サセ給シカバ、

クツログヤラント思召ケルニ、高倉宮ノ御謀叛ノ事出來テ、又カクノミ渡ラセ給ヘバ、コハ如何